

令和元年度第1回伊賀地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

- 伊賀地域高等学校活性化推進協議会設置要綱 P 1
- 令和元年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会委員名簿 P 2
- 【資料1】
 - 平成30年度の協議について P 3
- 【資料2】
 - ①学校別活性化協議会の取組状況（あけぼの学園高等学校） P 5
 - ②活性化プラン（あけぼの学園高等学校） P 7
- 【資料3】
 - ①伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況（3力年比較） P 9
 - ②伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況（平成31年3月卒） P10
 - ③伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況の推移 P11
- 【資料4】
 - 伊賀地域の県立高等学校（全日制）の平成31年度入学者選抜の状況 P13
- 【資料5】
 - 各高等学校の入学者の出身中学校と卒業者の進路状況 P14
- 【資料6】
 - ①伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減） P15
 - ②伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）【北部・南部別】 P16
- 【資料7】
 - 県立高等学校（全日制）の学級数の推移と入学者選抜における欠員状況 P17
- 【資料8】
 - 伊賀地域の県立高等学校への進学状況の推移【南北別】 P18
- 【資料9】
 - これまでの協議について P19
- 【資料10】
 - 令和元年度の協議について P21

伊賀地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 県立高等学校の活性化を推進し、地域社会における高等学校の特色化、魅力化を図り、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するために、伊賀地域高等学校活性化推進協議会（以下、協議会という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に協議する。

- (1) 今後の伊賀地域全体における県立高等学校の在り方に関すること
- (2) 施設・設備に関すること
- (3) 県立高等学校活性化推進に資すること
- (4) その他検討を要すること

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は平成17年7月21日から施行する。

附 則

この要綱は平成19年5月18日から施行する。

附 則

この要綱は平成19年10月2日から施行する。

附 則

この要綱は平成23年1月17日から施行する。

附 則

この要綱は平成23年8月29日から施行する。

附 則

この要綱は平成24年7月10日から施行する。

附 則

この要綱は平成29年9月4日から施行する。

令和元年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会 委員

区 分	所 属 等	氏 名	
1 学識経験者 (1名)	三重大学大学院 地域イノベーション学研究科 准教授	かとう たかや 加藤 貴也	継続
2	上野都市ガス株式会社 取締役営業部長	にし がき ひろ なお 西 垣 浩 尚	継続
3 有識者 (4名)	中外医薬生産株式会社 取締役管理本部長	おか もり ひさ よし 岡 森 久 剛	継続
4	亀井商事	なか たに ゆき お 中 谷 幸 雄	継続
5	有限会社テレマーク	さくら い かつ いち 櫻 井 勝 一	継続
6	伊賀市PTA連合会 会長 (伊賀市立霊峰中学校PTA)	なか むら ひで ゆき 中 村 英 行	R1新
7	名張市PTA連合会 会長 (名張市立北中学校PTA)	やま した たか し 山 下 卓 志	R1新
8 PTA関係者 (5名)	伊賀地区県立学校PTA協議会 会長 (あけぼの学園高等学校PTA会長)	はやし り え 林 理 恵	R1新
9	伊賀市内県立学校PTA 代表 (上野高等学校PTA会長)	おく たに かず ひさ 奥 谷 和 久	R1新
10	名張市内県立学校PTA 代表 (伊賀つばさ学園PTA会長)	やま ぎき たか こ 山 崎 貴 子	R1新
11 市教委教育長 (2名)	伊賀市教育委員会 教育長	たに ぐち しゅう いち 谷 口 修 一	R1新
12	名張市教育委員会 教育長	うえ しま かず ひさ 上 島 和 久	継続
13 小中学校長代表 (2名)	伊賀市小中学校長会 代表 (伊賀市立崇広中学校 校長)	ます だ ひろし 増 田 博	継続
14	名張市小中学校長会 代表 (名張市立南中学校 校長)	にし やま しょう ご 西 山 尚 吾	継続
15 教員代表 (2名)	小中学校教員 代表 (名張市立北中学校 教諭)	はま だ ひろ ゆき 濱 田 博 之	R1新
16	高等学校教員 代表 (伊賀つばさ学園 教諭)	やま もと じゅん こ 山 本 淳 子	R1新
17	名張青峰高等学校 校長	よし だ じゅん 吉 田 淳	継続
18 県立学校長代表 (3名)	伊賀白鳳高等学校 校長	とく だ よし み 徳 田 嘉 美	R1新
19	名張高等学校 校長	なか やま たか ゆき 中 山 隆 之	R1新

計19名

平成 30 年度の協議について

伊賀地域の中学校卒業者の進路状況では、他地域の高校に進学する生徒が普通科において多く見られることから、上野高校・名張青峰高校から活性化の取組について報告を行い、その内容について協議を行いました。また、伊賀地域の県立高校が、地域の中学生により多く希望されるようになるためには、どのような取組やPRが求められるかについて協議を行いました。

主な意見は次のとおりです。

《上野高校・名張青峰高校の取組について》

- 上野高校の「上高みらい学」(総合的な学習の時間)は、地域の課題を題材としてテーマを決め、主体的に探究活動に取り組むことから、地元への愛着が育まれる内容になっている。活動を計画する際は是非地域の企業を利用してほしい。(第2回)
- 名張青峰高校のICT機器を活用したアメリカの高校生との交流等は、グローバル化に対応したすばらしい取組となっている。国際交流活動を活発にするために海外留学の資金援助等が必要である。(第2回)
- 高校での教育活動は、教科の学習活動や探究活動、進路指導のほか、部活動なども含め多岐にわたっている。新たな取組を導入する際には、属人的にならないような仕組みづくりを大切にするとともに、人的支援をお願いしたい。(第2回)
- 子どもがどのような授業を受けているのかをもっと知りたい。今後の大学入試改革の動向などを含め、学校から保護者へより多くの情報を積極的に提供してほしい。
(第1回)

《学校と地域との連携・活性化について》

- 高校の活性化は地域の活性化と結びついている。両校には自分の夢だけでなく、高校卒業後に地域貢献し、地域の夢を追いかけることのできる若者を育ててほしい。
(第1回)
- 学校と地域が一体となって取り組むことにより、地元の魅力を子どもたちに伝え、地元を愛する心を育みたい。(第1回)
- 本校(中学校)では国際交流活動に力を入れており、その結果、グローバル教育に力を入れている名張青峰高校への志望者が多い。普通科高校においては、魅力あるカリキュラムの編成や運用が大切で、小中高の連携をさらに強め特色ある交流活動を行うことが活性化につながる。(第1回)
- 学校と地域が連携した学習活動を促進するためには、学校と地域をつなぐコーディネーターが必要である。町づくりに関わる地域の人材がその役割を担うことができたらと思う。(第2回)
- コミュニティ・スクールの仕組みを導入することにより、コーディネーターや部活動の指導員などの人的な支援を地域から得やすくなる。また、学校に魅力があり地域が学校をサポートしていることが地域のメリットになることが伝われば、協力者も増え支援も広がる。(第2回)

《学校のPRについて》

- 伊賀地域の県立高校の学習内容や特色は、以前に比べて中学生にわかりやすく伝わっており、それぞれが憧れや魅力を感じて地元の高校を志望している。(第2回)
- 中学3年生になってからでなく、もっと早い段階で地域の県立高校の学習内容や取組を知ることができれば、志望者の増加につながると思う。(第2回)
- 在学する高校生が、自分の高校の魅力を伝えれば、中学生もより興味を持って聴くことができ、学校の魅力や楽しさが伝わると思う。(第2回)
- 伊賀市PTA連合会では、県立高校を知ってもらう取組として、市内の小学5年生から中学3年生までの児童生徒とその保護者を対象に、「伊賀地域県立高校進学フェスタ(10月)」を開催している。今後、さらに来場者が増加するよう周知など工夫していく。(第2回)
- 地域の中学生在が志望校を決定する決め手は何か、実態を把握する必要がある。そのことをふまえて特色化、魅力化を進め、PRに取り組むことが、地域外への流出を抑え、逆に、地域外からの志願者を取り込むことにつながると思う。(第2回)

《地域の子どもたちに育みたい力》

- 社会は、自分で考え自分で行動する力や、他者に思いを伝え周囲を巻き込み自分の考えを実現する力を求めている。子どもたちには、もっと積極的に地域に出ることで、失敗を恐れずチャレンジする経験をしてほしい。(第2回)
- 「自分のやりたいことができる」ことをおもいしろいと感じ、取り組んでいける子どもを育てたい。(第2回)
- 子どもたちにリスクをきちんと理解させたいうえで、自分たちの責任で行動させることも必要である。そのことが他者とコミュニケーションを図り、自ら判断して意思表示できる人材を育てることにつながると思う。(第2回)

《通学について》

- 両市間を移動しての進学が少なくなってきたのは、通学事情によるところが大きい。(第2回)
- 伊賀市内の中学生にとって、交通の利便性や通学時間は進路選択の大きな要因であるため、地元の普通科高校への進学が難しい場合、普通科以外の高校や、居住地によってはより通いやすい他地域の普通科高校を選択することにつながっている。
(第1回)
- 路線バスも便数が減少し定期代の値上がりも心配される。折角、学校が良くなっても通学の不便さから生徒が集まらないということにならないよう、地域や行政が通学状況の改善に対して先手を打つ必要がある。(第1回)

《その他》

- 来年度、伊賀白鳳高校において、一級建築士を目指すことができる建築インテリアコースが開設される。生徒が学ぶ分野への興味・関心を高めるとともに、資格取得に向けて意欲的に取り組めるよう応援をお願いしたい。(第2回)

学校別活性化協議会の取組状況

(令和元年 9 月 6 日現在)

学校名	あけぼの学園高校
目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・「強く明るく真心で」を校訓とし、あけぼの学園高校の生徒として一人ひとりが“自信と誇り”を持ち、地域に貢献し地域から信頼される学校
活性化の方向性	<ol style="list-style-type: none"> ① 伊賀地域唯一の小規模校としての特徴を生かし、丁寧で親身な指導を受けることができ、生徒が安心して学べる学校づくりを進めます。 ② 総合学科としての特徴を生かし、生徒一人ひとりの個性やニーズ、自主性を大切にした特色ある実践的な教育を展開し、“自信と誇り”を持ち、地域で活躍できる人材を育てます。 ③ 校内外における取組を幅広く情報発信し、地域に根ざし地域から信頼される学校づくりを推進します。
活性化の主な取組 丸囲み数字は、活性化の方向性の項目番号に対応 矢印の後の○△×は取組の達成度を示す ○…達成 △…一部達成 ×…未達成	<p>《H29～30年度の取組と達成状況》</p> <p>① ICT機器の整備 →△電子黒板に代わるプロジェクターを導入、×無線 LAN 整備やタブレットの導入、○企業の支援による学校紹介用モニターの設定</p> <p>①生徒の基礎学力の定着のための教材の検討 →△ICTを活用した教材の導入</p> <p>①課外補習の充実 →○テスト後補習、テスト前補習を毎定期考査で実施、夏季休業中希望者への課外授業の実施</p> <p>①家庭、出身中学校、地域との連携強化 →○1年次全生徒の家庭訪問を実施、○中学校や地域関係機関を毎月1回以上訪問し、情報提供、情報交換</p> <p>②インターンシップの充実 →○上野商工会議所の協力を得て受入事業所の拡大、△受入事業所との連携による社会人基礎力、職業観の育成</p> <p>②地域に根差したキャリア教育 →○卒業生によるキャリアデザイン講話を実施、伊賀市 IGABITO 育成事業でのシチズンシップ教育の展開、伊賀市や企業との連携による美容商品の販売拡大と第3弾開発に向けた取組</p> <p>②③地域行事への参加、地域小中学校との交流授業等の実施 →○地域イベントへの参加、市内小中学校での美容の出前授業、お菓子作りの交流授業、高校生美容室や陶芸教室の開催ならびにこれらの活動のマスコミ等への掲載によるPR活動の拡大</p> <p>③成果発表会や公開授業、高校生活入門講座の実施などによるPR活動の拡大 → ○H30年度成果発表会(116名)、高校生活入門講座(中学生141名・保護者61名、計202名) H28年度と比較して20%以上の増加</p> <p>《令和元年度の新たな取組》</p> <p>①生徒一人ひとりに寄り添う丁寧な指導の充実</p> <p>②地域学習を取り入れた学習プログラムの確立</p> <p>②他校生との交流</p> <p>②系列の見直しとカリキュラムマネジメントの実施</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト前補習等の学習支援を進めたことや職員室前への自習机設置などの学習環境整備を行ったこと等により、生徒の学習意欲の向上が見られた。 ・小中学校との交流、地域行事などの活動に参加することや学びの成果を発表することに加え、各種デザインコンクールでの県知事賞他上位4賞を独占したことなどは、生徒が自信を持ち前向きに学校生活を送ることにつながっている。 ・中学校訪問やマスコミへの情報提供を増やすこと、懸垂幕を設置して生徒の頑張りや成果をアピールすることなどにより、学校の取組について地域への周知が進んだ。 ・地元企業の支援を受けて玄関に学校紹介用のモニターを設置した。これにより企業の来校者等に生徒の活動をPRできるようになった。

<p>課題と その対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着や学力向上に向けて、ICT機器の効果的な活用や副教材の検討、基礎力診断テストの結果の分析から授業改善をさらに進めていく必要がある。 ・外国にルーツを持つ生徒や特別な支援が必要と思われる生徒も多くみられ、一人ひとりに寄り添う丁寧な指導を行うための体制を構築する必要がある。 ・小中学校との交流や地域行事への参加者は徐々に増加し評価も得られているが、一部の生徒の活動にとどまっているため、さらに活動を広げ学校全体の取組にしていきたい。 ・地域における関係機関（企業、自治体、小中学校、保護者、地域住民等）との連携を主軸に、地域にとって魅力ある、かつ必要とされる学校になるよう特色ある取組をさらに進めていきたい。さまざまな観点から系列の枠組みの見直しや教育内容の充実等に積極的に取り組み活性化を図っていきたい。
---------------------	---

令和元年 6 月 20 日

活性化プラン

学校名	三重県立あけぼの学園高等学校
目指す学校像	「強く明るく真心で」を校訓とし、あけぼの学園高校の生徒として一人ひとりが「自信と誇り」を持ち、地域に貢献し地域から信頼される学校
3年後にありたい姿	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力、そして「あけぼの学園高校生としての自信と誇り」の面で、生徒に向上が見られる。 ・地域と連携した学習や取組を進め、地域からの評価に向上が見られる。
活性化の方向性と具体的な取組	<p>① 伊賀地域唯一の小規模校としての特徴を生かし、丁寧で親身な指導を受け、生徒が安心して学べる学校づくりを進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 少人数によるきめ細かな指導と基礎学力の定着・向上に向けた学習環境の整備 <ol style="list-style-type: none"> (1) 1 学年 80 名を 3 クラス編成とするきめの細かい指導（個人面談、ガイダンス面談、教育相談等の定期的な実施） (2) 基礎力診断テストを活用した一人ひとりに寄り添う丁寧な指導（事前・事後学習の徹底） (3) ICT 機器の整備（教室への電子黒板、貸出用タブレット等）やスタディサプリ等の自習教材の活用 (4) 課外補習の充実（テスト前補習、成績不振者補習、日本語学習等） 2. 主体性、協調性（コミュニケーション力）の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) インターンシップの充実（職業観の育成等を目指して企業との連携） (2) 地域と連携した活動の充実（小中学校等への出前授業、社会福祉施設や地域住民との異年齢交流、地域イベント等への参画、高校生美容室、陶芸教室の開催等） (3) 他校等との交流（校外活動の拡大、部活動の合同チームでの交流、授業や生徒会活動においてスカイプ等を活用した交流等） (4) 地域課題解決型学習プログラムの実施（地域の専門家を講師とした学習会、フィールドワークでの学習、地域食材を使った商品開発等） 3. 基本的生活習慣等の確立 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保護者や中学校、地域との連携の強化（連絡会議や家庭訪問等を通じた連携で「チームあけぼの」としての指導の確立） (2) 卒業生や企業採用担当者等による講話（社会人基礎力育成、ソーシャルスキルトレーニング等） <p>② 総合学科としての特徴を生かし、生徒一人ひとりの個性やニーズ、自主性を大切にした特色ある実践的な教育を展開し、「自信と誇り」を持ち地域で活躍できる人材を育てます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. より良い教育課程の編成や系列の見直し、授業改善等、特色ある実践的な教育の推進（協議会委員による県内外の先進校、先進事例視察） 2. 資格や検定資格等の取得促進（資格取得に係る講座） 3. 地方創生・地域と連携した取組 <ol style="list-style-type: none"> (1) まちづくり協議会や行政等と地域課題の解決に向けた協働（まちおこし、高校生が選ぶ納税返礼品の検討等） (2) 地元企業と連携した商品開発（美容、パン等） 4. クラブ活動の充実・活性化 <ol style="list-style-type: none"> (1) グラウンド等の整備、外部指導者の確保 (2) 新たな部活動の検討（ゴルフ部：指導者及び練習場所の確保と生徒の自己負担軽減等）

<p>活性化の方向性と具体的な取組</p>	<p>③ 校内外における取組を幅広く情報発信し、地域に根ざし地域から信頼される学校づくりを推進します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校紹介（広報用）ポスターとチラシの作成（中学生や地域への配布） 2. 学校の教育活動への理解や協力を依頼、周知 <ol style="list-style-type: none"> (1) 成果発表会への参加依頼（保護者、地域等） (2) 公開授業への参加依頼（保護者、小中学校教員等） (3) 高校生活入門講座への参加依頼（近隣の中学3年生全員） (4) 学校施設の社会教育等での活用（陶芸教室、パン作りや生涯スポーツ等、公民館講座等で地域との異年齢交流） 3. メディアを利用した広報活動の拡大 <ol style="list-style-type: none"> (1) マスコミへのさまざまな取組の情報を定期的に提供 (2) 学校のホームページ、公式ブログでの定期的な情報発信
	<p>④ その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的に負担を感じている生徒への支援 2. 地域との合同防災訓練 3. 学校活性化を支援する母体となる組織づくり 4. 外国にルーツを持つ生徒への日本語習得支援

区分	進路先	平成29年3月卒業		平成30年3月卒業		平成31年3月卒業	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
伊賀地域 県立高校	上野	271	18.7	271	18.5	270	19.1
	伊賀白鳳	259	17.9	264	18.0	259	18.3
	あけぼの学園	56	3.9	56	3.8	60	4.2
	名張	186	12.8	175	11.9	177	12.5
	名張青峰	284	19.6	267	18.2	258	18.2
	小計	1056	72.8	1033	70.4	1024	72.3
他地域 県立高校	津	44	3.0	47	3.2	52	3.7
	津西	25	1.7	30	2.0	30	2.1
	上記以外 ※1	57	3.9	72	4.9	70	4.9
	小計	126	8.7	149	10.1	152	10.7
私立 全日制	鈴鹿	3	0.2	3	0.2	1	0.1
	高田	8	0.6	5	0.3	9	0.6
	三重	10	0.7	23	1.6	12	0.8
	桜丘（日生第一）	9	0.6	6	0.4	6	0.4
	上記以外 ※2	9	0.6	7	0.5	3	0.2
	小計	39	2.7	44	3.0	31	2.2
県外 全日制	国公立	9	0.6	9	0.6	10	0.7
	私立	55	3.8	60	4.1	52	3.7
	小計	64	4.4	69	4.7	62	4.4
県立 定時制 通信制	上野(定)	9	0.6	8	0.5	18	1.3
	名張(定)	1	0.1	8	0.5	10	0.7
	上記以外の定・通	4	0.3	4	0.3	2	0.1
	小計	14	1.0	20	1.4	30	2.1
県外公立 定時制 通信制	山辺高校山添分校	7	0.5	12	0.8	5	0.4
	上記以外の定・通	0	0.0	0	0.0	2	0.1
	小計	7	0.5	12	0.8	7	0.5
私立 定時制 通信制 (広域, 県外 含む)	英心(通)	16	1.1	12	0.8	11	0.8
	徳風(通)	4	0.3	3	0.2	8	0.6
	上記以外 ※3	22	1.5	28	1.9	23	1.6
	小計	42	2.9	43	2.9	42	3.0
高等専門 学校	鈴鹿高専	6	0.4	5	0.3	4	0.3
	鳥羽商船	0	0.0	4	0.3	2	0.1
	近大高専	54	3.7	44	3.0	40	2.8
	県外高専	7	0.5	6	0.4	2	0.1
	小計	67	4.6	59	4.0	48	3.4
特別支援 学校	伊賀つばさ学園	7	0.5	12	0.8	5	0.4
	特別支援聖母の家	1	0.1	2	0.1	1	0.1
	県外特別支援	0	0.0	1	0.1	0	0.0
	小計	8	0.6	15	1.0	6	0.4
その他	就職	9	0.6	4	0.3	8	0.6
	上記以外 ※4	18	1.2	20	1.4	7	0.5
	小計	27	1.9	24	1.6	15	1.1
公立中学校卒業生数		1,450	100.0	1,468	100.0	1,417	100.0

平成31年3月卒業生

※1 桑名2、四日市3、四日市工業1、四日市中央工業1、四日市商業2、飯野5、白子4、石薬師3、亀山8、津商業4、津東10、津工業6、白山6、松阪7、松阪工業2、相可1、昴学園2、伊勢1、伊勢工業1、水産1の計70人

※2 セントヨゼフ1、皇學館2の計3人

※3 県内（定・通）3、県外（定・通）20の計23人

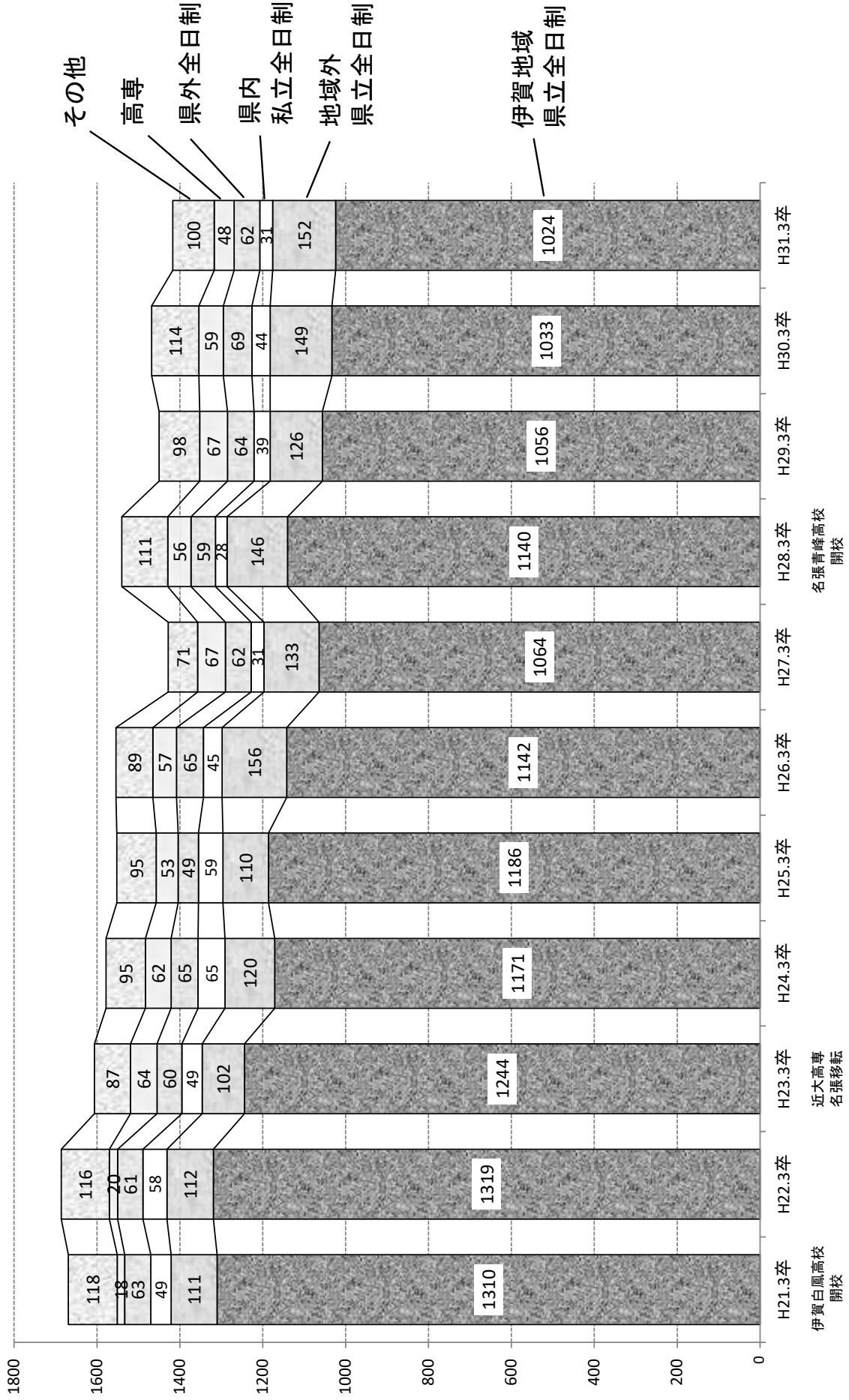
※4 専修・各種学校・職業訓練校等1、他（進学待機・求職中・無業等）6の計7人

伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況（平成31年3月卒）

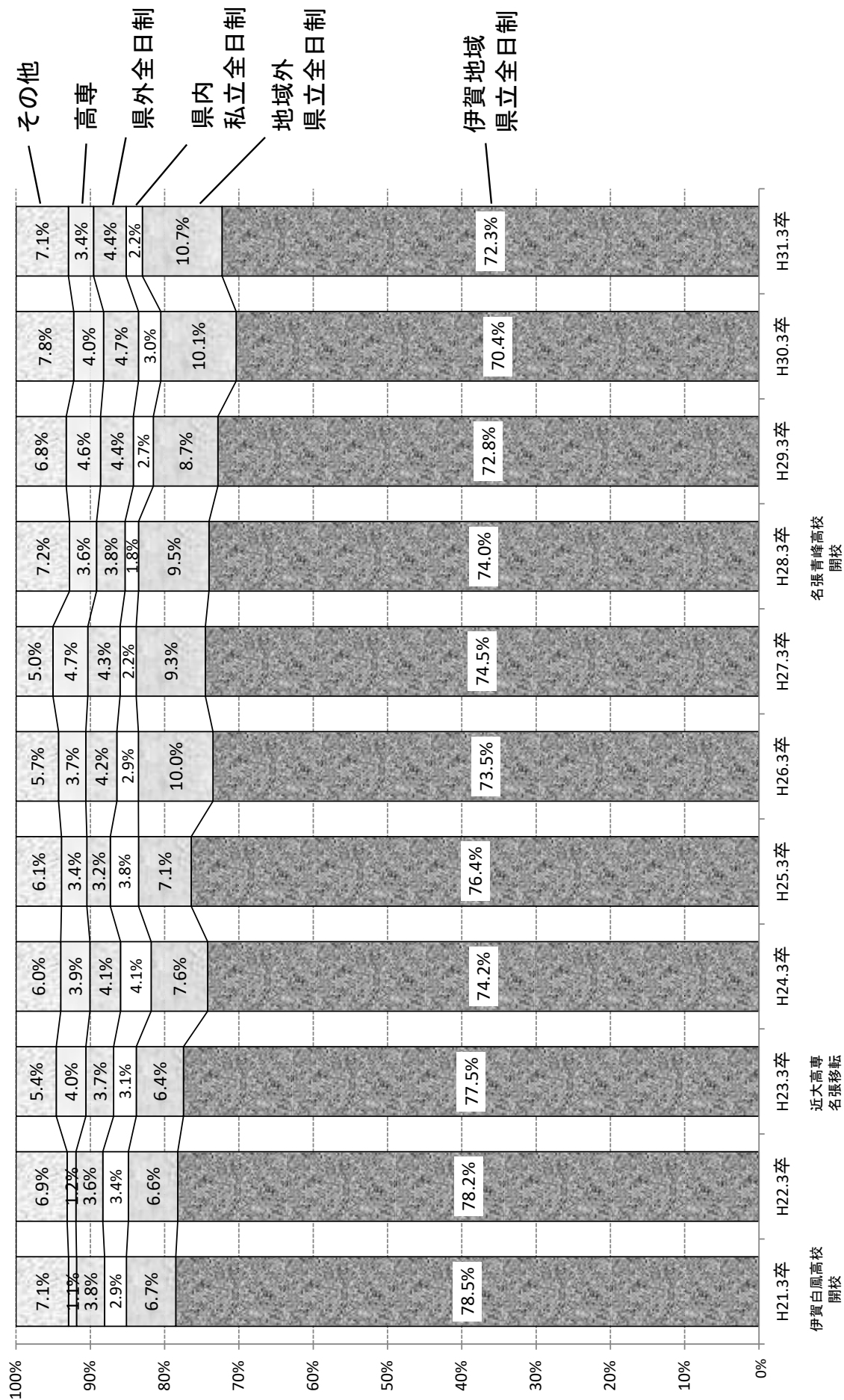
資料3②

区分	進路先	伊賀市		名張市		伊賀地域合計	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
伊賀地域 県立 全日制	上野	199	26.8	71	10.5	270	19.1
	伊賀白鳳	233	31.4	26	3.9	259	18.3
	あけぼの学園	41	5.5	19	2.8	60	4.2
	名張	37	5.0	140	20.8	177	12.5
	名張青峰	80	10.8	178	26.4	258	18.2
	小計	590	79.4	434	64.4	1024	72.3
他地域 県立 全日制	津	7	0.9	45	6.7	52	3.7
	津西	6	0.8	24	3.6	30	2.1
	上記以外 ※1	38	5.1	32	4.7	70	4.9
	小計	51	6.9	101	15.0	152	10.7
私立 全日制	鈴鹿	1	0.1	0	0.0	1	0.1
	高田	5	0.7	4	0.6	9	0.6
	三重	1	0.1	11	1.6	12	0.8
	桜丘（日生第一）	3	0.4	3	0.4	6	0.4
	上記以外 ※2	0	0.0	3	0.4	3	0.2
	小計	10	1.3	21	3.1	31	2.2
県外 全日制	国公立	6	0.8	4	0.6	10	0.7
	私立	19	2.6	33	4.9	52	3.7
	小計	25	3.4	37	5.5	62	4.4
県立 定時制 通信制	上野(定)	18	2.4	0	0.0	18	1.3
	名張(定)	2	0.3	8	1.2	10	0.7
	上記以外の定・通	2	0.3	0	0.0	2	0.1
	小計	22	3.0	8	1.2	30	2.1
県外公立 定時制 通信制	山辺高校山添分校	2	0.3	3	0.4	5	0.4
	上記以外の定・通	0	0.0	2	0.3	2	0.1
	小計	2	0.3	5	0.7	7	0.5
私立 定時制 通信制 (広域, 県外 含む)	英心(通)	0	0.0	11	1.6	11	0.8
	徳風(通)	6	0.8	2	0.3	8	0.6
	上記以外 ※3	11	1.5	12	1.8	23	1.6
	小計	17	2.3	25	3.7	42	3.0
高等専門 学校	鈴鹿高専	3	0.4	1	0.1	4	0.3
	鳥羽商船	0	0.0	2	0.3	2	0.1
	近大高専	8	1.1	32	4.7	40	2.8
	県外高専	0	0.0	2	0.3	2	0.1
	小計	11	1.5	37	5.5	48	3.4
特別支援 学校	伊賀つばさ学園	3	0.4	2	0.3	5	0.4
	特別支援聖母の家	0	0.0	1	0.1	1	0.1
	県外特別支援	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	小計	3	0.4	3	0.4	6	0.4
その他	就職	8	1.1	0	0.0	8	0.6
	上記以外 ※4	4	0.5	3	0.4	7	0.5
	小計	12	1.6	3	0.4	15	1.1
公立中学校卒業者数		743	100.0	674	100.0	1,417	100.0

伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況の推移【人数】



伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況の推移【割合】



資料 4

伊賀地域の県立高等学校（全日制）の平成31年度入学者選抜の状況

高校名	学科・コース名	H31 募集定員	H30.12.14 希望者数	前期選抜等			後期選抜				再募集			合格者 総数	入学者数	欠員
				募集定員	志願者数	合格 内定者数	募集定員	志願者数 (最終)	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
上野	普通	240	232				240	227	0.95	240				240	240	0
	理数	40	66	20	56	20	20	41	2.05	20				40	40	0
	計	280	298	20	56	20	260	268	1.03	260				280	280	0
あけぼの学園	総合学科	80	74	40	73	45	35	39	1.11	35				80	79	1
				4	1											
伊賀白鳳	機械	40	46	20	47	22										
	電子機械	40	44	20	45	22										
	建築デザイン	40	47	20	47	22										
	生物資源	40	27	20	26	19	129	145	1.12	129				280	280	0
	フードシステム	40	51	20	50	22										
	経営	40	43	20	42	22										
	ヒューマンサービス	40	41	20	43	22										
名張	計	280	299	140	300	151	129	145	1.12	129				280	280	0
	総合学科	200	175	100	182	108	92	96	1.04	92				200	200	0
名張青峰	普通	240	223	72	221	75	165	142	0.86	163	2	0	2	240	240	0
	文理探究コース	40	40	20	42	20	20	37	1.85	13	7	15	7	40	40	0
	計	280	263	92	263	95	185	179	0.97	176	9	15	9	280	280	0
伊賀地域計		1,120	1,109	396	875	419	701	727		692	9	15	9	1,120	1,119	1

※「H30.12.14希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施された進学希望状況調査(H31.1.18公表)による。

※あけぼの学園の上段は前期選抜、下段は特別選抜

各高等学校の入学者の出身中学校と卒業者の進路状況

		上野	あけぼの 学園	伊賀白鳳	名張	名張青峰
設置学科等 (H31募集定員)		普通(240) 理数(40)	総合(80)	工業・農業 商業・福祉 (280)くくり募集	総合(200)	普通(240) 文理探究(40)
H31年度 (R1年度) の入学者の 出身中学校	伊賀北部 の中学校	人 191 % 68.2%	41 51.9%	230 82.1%	27 13.5%	59 21.1%
	伊賀南部 の中学校	人 80 % 28.6%	19 24.1%	29 10.4%	151 75.5%	199 71.1%
	上記以外の 県内中学校	人 7 % 2.5%	18 22.8%	20 7.1%	11 5.5%	17 6.1%
	県外の中学校 (奈良県等)	人 2 % 0.7%	1 1.3%	1 0.4%	11 5.5%	5 1.8%
	入学者数計	人 280	79	280	200	280
	H30年度 卒業生の 進路状況	4年制大学 (大学校含む)	% 278 99.3%	1 1.3%	29 10.4%	42 21.0%
短期大学 (高専含む)		% 7 2.5%	1 1.3%	13 4.6%	26 13.0%	30 10.7%
専修・各種学校 等		% 10 3.6%	6 7.6%	44 15.7%	68 34.0%	75 26.8%
就職		% 0 0.0%	67 84.8%	181 64.6%	76 38.0%	11 3.9%
その他 (進学待機を含む)		% 22 7.9%	0 0.0%	2 0.7%	14 7.0%	15 5.4%
卒業生数計		人 317	75	269	226	302

※ 「伊賀北部の中学校」は伊賀市の中学校から青山中学校を除き、「伊賀南部の中学校」は名張市の中学校に青山中学校を加える。

伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

【改】資料6①

令和元年5月1日 教育政策課調べ

中学校卒業年月	H 28.3 卒業	H 29.3 卒業	H 30.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 現中3	R 3.3 現中2	R 4.3 現中1	R 5.3 現小6	R 6.3 現小5	R 7.3 現小4	R 8.3 現小3	R 9.3 現小2	R 10.3 現小1
伊賀市	905	841	829	829	810	776	760	740	749	697	686	713	669
卒業生数													
前年度対比		-64	-12	0	-19	-34	-16	-20	9	-52	-11	27	-44
H31.3対比					-19	-53	-69	-89	-80	-132	-143	-116	-160
①公立小中在籍者数	(838)	(761)	(748)	(743)	736	721	734	746	752	702	695	718	676
②私立小中在籍者数	(67)	(80)	(81)	(86)	65	28	15						
名張市	702	689	720	674	647	657	649	633	639	657	633	650	627
卒業生数													
前年度対比		-13	31	-46	-27	10	-8	-16	6	18	-24	17	-23
H31.3対比					-27	-17	-25	-41	-35	-17	-41	-24	-47
伊賀地域計	1,607	1,530	1,549	1,503	1,457	1,433	1,409	1,373	1,388	1,354	1,319	1,363	1,296
卒業生数													
前年度対比		-77	19	-46	-46	-24	-24	-36	15	-34	-35	44	-67
H31.3対比					-46	-70	-94	-130	-115	-149	-184	-140	-207
①②③小中在籍者数					1,445	1,408	1,398	1,411	1,421	1,393	1,365	1,399	1,336
伊賀地域県立高校の1学年学級数	31	29	29	28	27								

(参考)

伊賀地域	H 28.3 卒業	H 29.3 卒業	H 30.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 現中3	R 3.3 現中2	R 4.3 現中1	R 5.3 現小6	R 6.3 現小5	R 7.3 現小4	R 8.3 現小3	R 9.3 現小2	R 10.3 現小1
卒業生数	17,848	17,513	17,458	16,811	16,489	15,776	16,179	16,003	15,896	15,573	15,405	15,259	14,688
前年度対比	51	-335	-55	-647	-322	-713	403	-176	-107	-323	-168	-146	-571
H31.3対比					-322	-1,035	-632	-808	-915	-1,238	-1,406	-1,552	-2,123
小中在籍者数					16,477	15,741	16,162	16,143	16,027	15,718	15,567	15,413	14,836

伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)【北部・南部別】

【改】資料6②

令和元年5月1日 教育政策課調べ

中学校卒業年月	H 28.3 卒業	H 29.3 卒業	H 30.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 現中3	R 3.3 現中2	R 4.3 現中1	R 5.3 現小6	R 6.3 現小5	R 7.3 現小4	R 8.3 現小3	R 9.3 現小2	R 10.3 現小1
伊賀 北部	卒業生数	811	758	749	761	750	714	699	682	693	626	652	607
	前年度対比		-53	-9	12	-11	-36	-15	-17	11	7	26	-45
	H31.3対比					-11	-47	-62	-79	-68	-135	-109	-154
	①公立小中在籍者数	(744)	(678)	(668)	(675)	676	659	672	685	693	621	654	611
②私立小中在籍者数	(67)	(80)	(81)	(86)	65	28	15						
伊賀 南部	卒業生数	796	772	800	742	706	719	710	691	696	693	710	689
	前年度対比		-24	28	-58	-36	13	-9	-19	5	-42	17	-21
	H31.3対比					-36	-23	-32	-51	-46	-49	-32	-53
	③公立小中在籍者数					704	721	711	726	728	732	745	725
伊賀地域 計	卒業生数	1,607	1,530	1,549	1,503	1,456	1,433	1,409	1,373	1,389	1,319	1,362	1,296
	前年度対比		-77	19	-46	-47	-23	-24	-36	16	-35	43	-66
	H31.3対比					-47	-70	-94	-130	-114	-184	-141	-207
	①②③小中在籍者数					1,445	1,408	1,398	1,411	1,421	1,365	1,399	1,336

伊賀地域県立高校の1学年学級数	31	29	29	28	27								
-----------------	----	----	----	----	----	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 伊賀北部＝伊賀市から旧青山町を除く。

※ 伊賀南部＝名張市に旧青山町を加える。

(参考)

	H 28.3 卒業	H 29.3 卒業	H 30.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 現中3	R 3.3 現中2	R 4.3 現中1	R 5.3 現小6	R 6.3 現小5	R 7.3 現小4	R 8.3 現小3	R 9.3 現小2	R 10.3 現小1
県内合計	卒業生数	17,848	17,513	17,458	16,811	16,489	15,776	16,179	16,003	15,896	15,405	15,259	14,688
	前年度対比	51	-335	-55	-647	-322	-713	403	-176	-107	-168	-146	-571
	H31.3対比					-322	-1,035	-632	-808	-915	-1,406	-1,552	-2,123
	小中学校在籍者数					16,477	15,741	16,162	16,143	16,027	15,718	15,567	15,413

伊賀地域の県立高等学校（全日制）の学級数の推移

		西暦 和暦	2004 平成16	2005 17	2006 18	2007 19	2008 20	2009 21	2010 22	2011 23	2012 24	2013 25	2014 26	2015 27	2016 28	2017 29	2018 30	2019 31	
北部（伊賀市から旧青山町を除く）	上野		9	9	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	8	7	7	7	
	あけぼの学園		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	上野商業		6	5	5	5	4												
	上野工業		5	4	4	4	3												
	上野農業		3	3	2	2	2												
	伊賀白鳳							7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
	北部 学級数計		25	23	21	21	19	17	17	16	16	16	16	16	16	17	16	16	16
	H16対比			▲2	▲4	▲4	▲6	▲8	▲8	▲9	▲9	▲9	▲9	▲9	▲8	▲9	▲9	▲9	▲9
	H21対比								0	▲1	▲1	▲1	▲1	▲1	0	▲1	▲1	▲1	▲1
	中学校卒業生数(公立)		902	837	726	830	753	746	793	760	767	775	732	707	744	678	668	675	
	H16対比			-65	-176	-72	-149	-156	-109	-142	-135	-127	-170	-195	-158	-224	-234	-227	
	H21対比								47	14	21	29	-14	-39	-2	-68	-78	-71	
中学校卒業生数(私立)		61	58	57	63	43	55	56	67	65	55	73	68	67	80	81	86		
中学校卒業生数 計		963	895	783	893	796	801	849	827	832	830	805	775	811	758	749	761		

		西暦 和暦	2004 平成16	2005 17	2006 18	2007 19	2008 20	2009 21	2010 22	2011 23	2012 24	2013 25	2014 26	2015 27	2016 28	2017 29	2018 30	2019 31
南部（名張市+旧青山町）	名張		6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	5	5	5
	名張桔梗丘		6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	4				
	名張西		8	7	7	7	7	7	7	6	6	6	5	4				
	名張青峰														8	8	8	7
	南部 学級数計		20	18	18	18	18	18	18	17	16	16	15	13	14	13	13	12
	H16対比			▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲3	▲4	▲4	▲5	▲7	▲6	▲7	▲7	▲8
	H21対比								0	▲1	▲2	▲2	▲3	▲5	▲4	▲5	▲5	▲6
	中学校卒業生数(公立)		1172	1053	1071	1024	998	923	893	846	811	777	822	721	796	772	800	742
H16対比			-119	-101	-148	-174	-249	-279	-326	-361	-395	-350	-451	-376	-400	-372	-430	
H21対比								-30	-77	-112	-146	-101	-202	-127	-151	-123	-181	

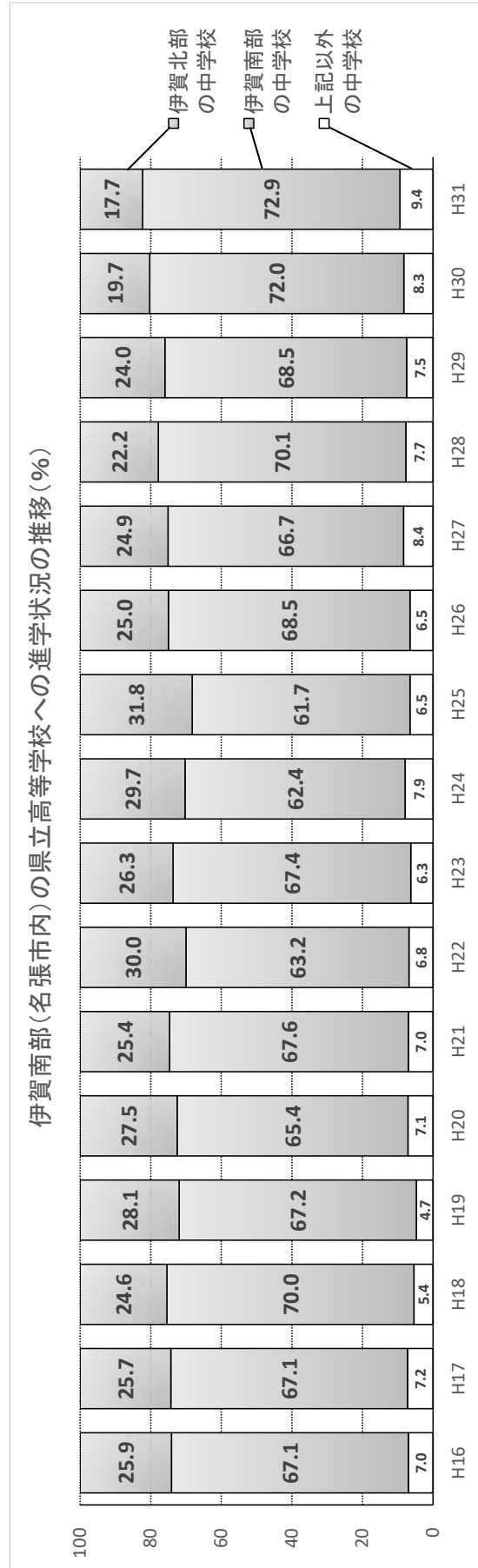
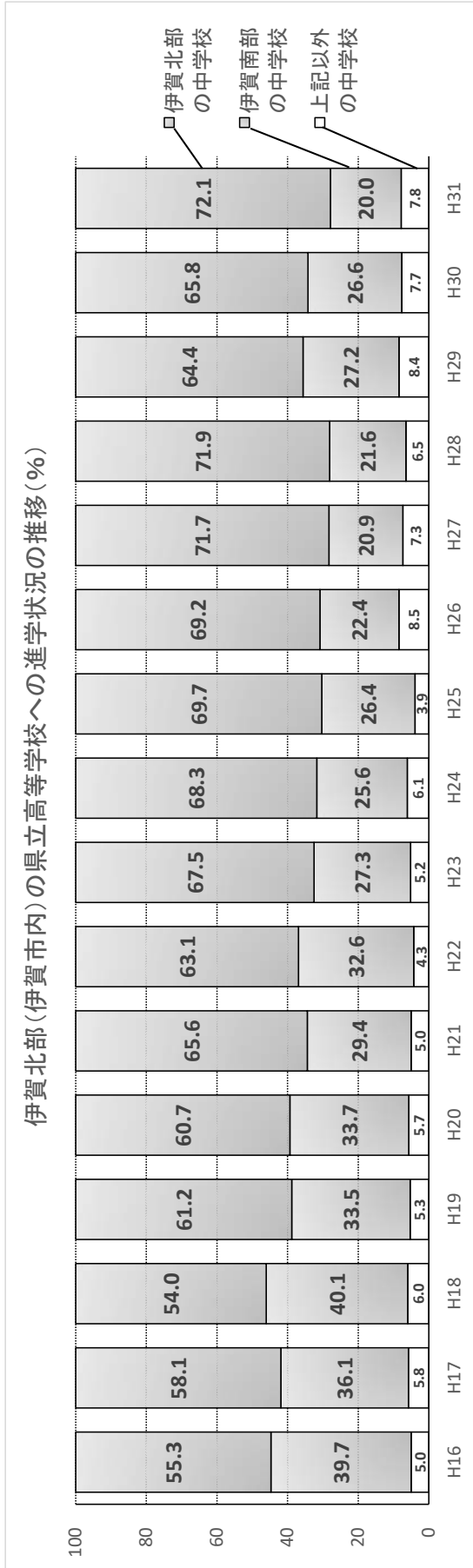
		西暦 和暦	2004 平成16	2005 17	2006 18	2007 19	2008 20	2009 21	2010 22	2011 23	2012 24	2013 25	2014 26	2015 27	2016 28	2017 29	2018 30	2019 31
合計	学級数計		45	41	39	39	37	35	35	33	32	32	31	29	31	29	29	28
	H16対比			-4	-6	-6	-8	-10	-10	-12	-13	-13	-14	-16	-14	-16	-16	-17
	中学校卒業生数計		2135	1948	1854	1917	1794	1724	1742	1673	1643	1607	1627	1496	1607	1530	1549	1503
	H16対比			-187	-281	-218	-341	-411	-393	-462	-492	-528	-508	-639	-528	-605	-586	-632

伊賀地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜における欠員状況

		西暦 和暦	2004 平成16	2005 17	2006 18	2007 19	2008 20	2009 21	2010 22	2011 23	2012 24	2013 25	2014 26	2015 27	2016 28	2017 29	2018 30	2019 31
北部	上野												1					
	あけぼの学園				3													1
	上野商業		9		4	6												
	上野工業		1	1	2	2												
	上野農業		6		10													
	伊賀白鳳																	
北部 計		16	1	19	8	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
南部	名張										21							
	名張桔梗丘											15	1					
	名張西					3	6	3				14	3	6				
	名張青峰														14	12	38	
南部 計		0	0	0	0	3	6	3	0	21	29	4	6	14	12	38	0	
伊賀地域 計		16	1	19	8	3	6	3	0	21	29	5	6	14	12	38	1	

資料 8

伊賀地域の県立高等学校への進学状況の推移【南北別】



※ 「伊賀北部の中学校」は伊賀市の中学校から青山中学校を除き、「伊賀南部の中学校」は名張市の中学校に青山中学校を加える。

これまでの協議について

1 平成24年度までの協議

- (1) 中学校卒業者数の減少に対応するため、平成16年度から協議会を設置し、県立高校のあり方について検討を進め、平成18年9月にそれまでの協議を総括しました。【参考資料1】
- 伊賀市内の専門高校3校を統合して、スケールメリットを生かして学校の活性化を図り、子どもたちの多様なニーズに対応した教育を提供することや、地域の人材育成や産業の発展に寄与することを期待し、新総合専門高校を設置することをとりまとめた。(⇒平成21年4月、伊賀白鳳高校開校)
 - 普通科高校の再編及びあけぼの学園高校の再編についても協議を行ったが、それぞれ賛否両論の意見が出された。
 - 少子化が進む平成27～33年度頃には伊賀地域の県立高校は4校程度となることをイメージ化した。
- (2) 少子化が進行することを見据え、平成22年度に協議会を再開し、当地域の県立高校のあり方について検討を進めました。【参考資料2・3】
- 平成24年度までの検討の結果、平成28年4月に名張桔梗丘高校と名張西高校を統合して普通科をベースとした新しい高校を設置し、両校の良さを継承・発展させるとともに、広い視野とコミュニケーションスキルを身につけ、地域や世界で活躍できる人材を育成すること等を協議のまとめ(平成25年3月)とした。(⇒平成28年4月、名張青峰高校開校)
 - 「再編活性化基本計画」では、1学年3～8学級を適正規模としているが、伊賀地域においては学校運営の観点から、6学級を大きく上回ったり下回ったりしない規模が適当と考えられる。3～4学級では活性化は難しい。
 - あけぼの学園高校は、2学級を設置のコンセプトとしており、小規模校のメリットを生かした多様な生徒へのきめ細かな指導により成果をあげている。このことから、存続を求める声が多いといった意見が出された。

2 平成25・26年度の協議【参考資料4】

- (1) 地域全体の学科の適正な配置について、中学校卒業者数の推移予測や中学生の進路状況など、当地域の県立高校をとりまく状況をふまえ協議しました。以下は、主な意見です。
- 平成27～33年度頃に伊賀地域の県立高校が4校になるというイメージが示されているが、本当に4校になってよいのかをよく考えて議論すべきである。
 - 当地域は普通科への志向が強いという意見があるが、地域のニーズを分析したうえで、普通科や総合学科等をどうしていけばよいか考えなければならない。
- (2) 伊賀地域における中高一貫教育の実施について、そのメリット・デメリットや全国の事例等を踏まえて協議を行いました。

「ゆとり」をもって学ぶことができる等の大きな利点がある一方で、少子化が進む中で、当地域の小中学校に与える影響の大きさが心配される等の課題があることから、新たに中高一貫教育校を設置することは難しいと結論づけました。

- (3) 特別な支援を必要とする子どもたちの県立高校への受け入れと支援について、現状や課題を踏まえて協議を行い、これ以降も引き続き、協議を進めることとしました。

3 平成27年度以降の協議

- (1) 特別な支援を必要とする子どもたちの県立高校への受け入れと支援について、引き続き協議し、進めるべき取組について、「特別な支援を必要とする子どもたちの県立高等学校への受け入れと支援について」（平成28年3月）としてとりまとめとしました。以下は主な事項です。
- 「学び直し」の内容を扱う科目を含め、多様な科目の設置等、教育課程を工夫
 - すべての生徒にとって「わかる授業づくり」に向けた教科指導の工夫
 - 教職員の指導スキルの向上と学校全体としての支援体制の充実
 - 確実な支援情報の引継と一貫した支援に向けた連携体制の充実
- (2) 地域における学科の適正な配置の観点から、専門学科の学科・コース、総合学科の系列について、協議を行いました。
- 「土木・建築等を学ぶことができる学科・系列がないので、ニーズを検証したうえで、学科等の見直しも検討していく必要がある。」という意見（平成27年度第3回協議会）が出された。
 - 地域の中学生や産業界のニーズを把握するためのアンケート調査をふまえ、学科・コース・系列について協議を行い、建築・土木コースの設置について、学校と県教育委員会で検討し進めていくことを確認（平成29年度第1回協議会）した。（⇒平成31年4月、伊賀白鳳高校に建築デザイン科設置）
- (3) 伊賀地域の県立学校を志望する地域内の中学生が減少傾向にあることから、学校の活性化・魅力化について協議しました。主な意見は次のとおりです。
- 子どもたちのニーズをふまえれば、行きたい学校が地元にあるということが大切である。
 - 地域の高校は多様な学科・コースの設置によって魅力が増した印象はある。保護者の視点では、伊賀市と名張市の行き来はできれば避けたいので、現在の5校を維持して欲しい。
 - 生徒数の減少が進んでも生徒のニーズは多様化している。生徒のニーズに幅広く応える学校の環境づくりに地元企業からの支援が大切である。
 - 県立高校が地域からさらに支持されるためには、中高の連携による取組の成果などについての情報発信を強化する必要がある。

令和元年度の協議について

1 基本的な協議の方向

- 当協議会は、平成18年9月の協議会のまとめにおいて、平成27～33年頃には伊賀地域の高校は4校程度となることをイメージ化しましたが、その後、地域外の高校への進学者の増加や通学事情の変化など、地域の県立高等学校にとって以前と異なる状況が生じています。そのような中、今後の中学校卒業生数の減少に伴い、伊賀地域の県立高等学校（全日制）の学級数は、令和10年頃には24～25学級程度まで減少している可能性が考えられます。
- 地域全体の県立高等学校のあり方について、今後の中学校卒業生数の減少予測や、伊賀地域の県立高等学校を取り巻く状況の変化をふまえ、子どもたちや地域のニーズ、各県立高等学校が担う役割、学科のバランス、学校規模等の様々な観点から検討する必要があります。
- 今年度の協議は、地域の子どもたちにとって望ましい学びの実現、学校のあり方について、引き続き協議を進めます。令和2年度末に、協議会としての「協議のまとめ」をまとめます。

2 協議会の開催予定

- (1) 第1回協議会（10月9日）
 - ・学校別活性化協議会の取組状況について
 - ・伊賀地域の高等学校を取り巻く状況について
 - ・伊賀地域の高等学校の今後のあり方について
- (2) 第2回協議会（2月下旬～3月上旬）
 - ・学校別活性化協議会の取組状況について
 - ・伊賀地域の高等学校の今後のあり方について

今回の協議会において協議していただきたい論点

伊賀地域の高等学校の今後のあり方について

(論点 1)

これまでの協議会での協議をふまえ、伊賀地域の県立高等学校を取り巻く状況から見える課題は何か？

(論点 2)

地域の子どもたちのニーズに応じたよりよい学びを実現するために、地域の県立高等学校がどうあるべきか？